

2023年2月17日 第3420回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 長尾 副会長
<斉唱> 「それこそロータリー」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ゲスト紹介> * 版画家・絵本作家 ささめや ゆき 様
* 株式会社JTB 横須賀支店 支店長 長島 誠人 様
* 共創未来横須賀薬局 薬局長 萩原 英恵 様
<ビジター紹介> * 横浜ロータリークラブ 杉山 徹 様
<会長報告> * ガバナー事務所より

・2023-24年度地区役員・委員会委員(正副委員長含む)

ご就任委嘱の件について

青少年交換委員会 副委員長 勝見 慎一 会員

・青少年交換 派遣候補生オリエンテーションのご案内について

3月4日(土) 14:00~17:00 場所: 第一相澤ビル8F 「会議室」

- <委員長報告> * 中期ビジョン特別委員会
・植田委員長及び岡田(英)カウンセラーより戦略計画案についての説明
<幹事報告> * 第1グループ会長・幹事会報告
* ガバナー月信 No. 8

<出席報告> * 出席委員会 田村副委員長より2月17日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
114名	102名	72名(6名)	30名	7名	77.45%

<ニコニコ報告>

- ・杉山 徹 様(横浜RC) 先日、横須賀市議会にて、NHKニッパツ企業版ふるさと納税をご承認いただきました。これにより本庁舎1号館と分館、はぐくみかんに女性用ウォッシュレットを設置。本件に関しましては、**かながわ**信金様の多大なるご支援を頂きました。また、ほっとかん、本庁舎分館、はぐくみかんにはオイテル(女性用無料生理用品)の設置。本件に関しましては、湘南信金様の多大なるサポートを頂きました。皆様のご支援ご協力に心から御礼申し上げます。
- ・三 役 版画家・絵本作家、ささめやゆき様ようこそ横須賀RCにお越し下さいました。本日の卓話どうぞ宜しくお願いいたします。
- ・椿、石田、小山(働)、長谷川、比護、大石、田村、小山(働)、立石、松岡、永井、福西、田中、杉浦、新倉(働)、江沢、植田、五十嵐、加藤(働)、齋藤(働)、小沢、田邊、濱田、木村、澤田、江口、鹿島、小平、渡邊、二瓶、猿丸、藤村、Enora、根岸、岡田(働)、三堀、勝間、杵淵、鈴木(働)、勝見 各会員
版画家・絵本作家、ささめやゆき様本日は横須賀RCにお越し下さり有難うございます。卓話楽しみにしています。どうぞ宜しくお願いいたします。
- ・長尾 会員 ニッパツ代表取締役 杉山 徹様、ようこそ横須賀ロータリークラブへ。
- ・2番テーブル齋藤(働)マスター・大野(働)サブマスター 2月13日(月)メルキュールホテルにて2番テーブルミーティングを開催いたしました。長尾副会長、瀬戸幹事、兼城SAA、角井副SAA、三宅さんに参加して頂き有難うございました。また、猿丸会員には美味しいお料理とお酒を有難うございました。
- ・梁井、八木、上林、兼城、長尾 各会員 2月13日(月)2番テーブルミーティングをメルキュールホテルで開催しました。美味しい料理とお酒を楽しみ、帯状疱疹で盛り上がり楽しいひと時を過ごしました。齋藤慎太郎マスター、大野健男サブマスター、猿丸会員有難うございました。

- ・ 3番テーブル植田マスター、加賀本サブマスター 昨日(2/16) 3番テーブルミーティングを住よしで開催致しました。瀬戸幹事、兼城SAA、角井副SAA、ご参加ありがとうございました。皆様のご協力と活気で楽しいひと時となりました。ありがとうございました。
- ・ 小佐野、小林 (+)、須藤、山田、松本、岡田、福西、兼城 各会員
昨夜2月16日(月) 3番テーブルミーティングを住よしで開催しました。美味しいお料理とお酒を堪能しながら会員の近況報告も行い親睦深まる楽しいテーブルミーティングでした。植田威マスター、加賀本サブマスター、松本明弘会員、大変お世話になりました。

<卓 話>

「本当は残酷な作家・画家の作品の裏側」

版画家・絵本作家 ささめや ゆき 様

はじめまして、ささめやと申します。私は鎌倉に住んでおります。出た高校は逗子高校です。ここに同級生がいますので、懐かしく感じました。よろしく願いいたします。こういう場所に来て、何を語ればいいのかわからなかったのですが、絵しか描いてませんので、絵のことを話してみたいと思います。特に、現在ロシアがウクライナを侵攻していますので、それに関連してお話したいと思います。僕は1996年にロシアに行きましたが、ロシアが貧しいときであり、「赤の広場」ではいろいろな人が来て、売っているものが、石鹸一個、ニンニク一個とかでした。デパートに行っても、品物は何にもなく、非常にロシアは貧しかったです。それに対して、今回のような侵攻があるのは、ロシアの反動であり、国を強くしなければいけないという気持ちがあるのかなと思います。でも、他国を侵略することは絶対によくないと思います。今ウクライナの子供たちに絵本を作っています。



どこの国の子供も絵本を借りてくれています。それで、むしろ僕たちは生活できるわけです。直接僕の絵本をウクライナの子たちは買っているとは思いませんけれども、子供たちと絵本の作家というのは繋がっていると思います。今日これをお持ちしましたけど、このチラシにある「ちきゅうパスポート」というのを考案し、こういう風に蛇腹になっています。それぞれが手を繋いでいくような感じで作りました。日本人だけではなく、世界の画家たちとも集まって、こういうのを作っています。これをやったからといってどうなるかわかりませんが、これを少しでも売って、そのお金をウクライナに支援しようと思っています。これがうまくいけば、第二弾、第三弾と出し、絵で少しでも役に立てばいいなと思っています。興味がありましたら、ぜひ買っていただいて、皆様のご協力をお願いしたいと思います。貧しかったモスクワに行った時、「イワン」という画家に会いました。その人は絵を描いて、売って生きています。絵描きが絵を売って生きるのを目の当たりにして、「アート」というものは人々にとって大切なものだなというのをよくわかりました。絵を入れる額縁は「窓」であり、自分の部屋の窓からいい景色が見えたり、いい色が見えたり、いい色の組み合わせがあったりするものなので、素晴らしい景色が見えたら、それが本当に素晴らしいことだと思うのです。そのための絵であり、自分の部屋から外を見る時の額縁だったらいいと思うのです。今、特にテレビ番組で絵が値段で評価されますが、本当は絵やそういうものは人の心を優しくするものであって、決して値段の取引ではないです。こういう世界ですから、値段がついてくるのは当然ですが、常に大切なのは絵によって心が癒されることではないかと思っています。チラシの上側の作品にあるのは、ベン・シャーン (Ben Shahn) というリトアニアの画家のものです。若いうちにアメリカに渡って、のちに成功しま

す。絵はただ美しいというものではなくて、絵を通してもっと物を言っていていいという考え方の持ち主です。作品にあるように、文字がいっぱい入っているのですが、農民たちが虐げられたりするのを告発する絵を描いた人です。社会と絵の繋がりを作った人であり、絵の中にこうやって文字を書くことで、さらに分かりやすく描いた人です。日本と関わり合いがあるものでいいますと、マーシャル諸島で水爆実験が行われ、日本のマグロ漁船の人たちが被爆しましたが、それを絵に描いて世界に知らせた人が、このベン・シャーンなんです。この人がいなかったら、広まっていかなかったと思います。夢の島の公園（東京）にその絵が保管されているので、ぜひ見てもらいたいと思います。非常に衝撃を受けると思います。チラシの下側にある羊や女の人が横たわっている作品は、ニコ・ピロスマニ (Niko Pirosmani) というグルジア (現・ジョージア) の絵描きのもので、僕の好きな画家であり、2年前にこの人の絵を見るためにグルジアに行ってきました。当時はそれほど有名ではなく、この画家は、生活のために雑貨屋とか色々やっていたりしたのですが、貧しい人が来ると、タダであげたりしたため、結局自分の店が成り立たなくなり、町の中を放浪するような画家になりました。「放浪画家」と言われ、カフェ、レストランや宿屋に行き、絵を描く代わりにワインやパンをもらって生活している人でした。非常に辛い人生を送っているのですが、一度フランスからの画家にすごくいい絵だといわれ、その人にモスクワに連れて行かれ、日本でいう芸術委員会の一歩偉い人に見てもらったのですが、「デッサンができてないからダメじゃん」と言われました。帰国後、基本ができてない絵描きではないかと言われ、さらに劣悪な人生を送ることになりました。この下の絵にある女性に恋をしたのですが、「百万本のバラ」という名曲の主人公だといわれています。彼の名前はその歌で残りましたが、本当はアルメニアの曲であり、ロシアとドイツの間の戦いで青年たちが兵隊として死んでいくのに対して、母親たちが「神様、なぜ私たちの息子を助けてくれないのですか」と嘆く歌なのです。現在国立美術館に行きますと、ニコ・ピロスマニの絵があります。画家が活着している間は売れず、亡くなってから100年、150年後に値段で取引され、取引している人たちは儲かりますけれども、実際描いた画家たちは全然恩恵に与らないです。もっと本質を見て、自分がいいなと思うのが、やっぱり一番いいです。絵の値段は一体誰が決めるのかずっと疑問だったのですが、調べてみたところ、値段を決めているのは画家自身だと分かりました。スポーツならば、100メートルを10秒で走るなどわかりやすいのですが、絵はそれがないので、非常に曖昧なものです。三島由紀夫も小説家もスポーツと同じように価値を決めてほしいと言っていましたけど、絵は自分がいいと思えばいいと思います。資本主義の社会なので、値段で決めるのはしょうがないかもしれませんが、自分がいいっていうものがいいと思えばいいと思います。そういう風に絵を見てもらって、自分の額縁の窓からいいものが見えたら幸せなんだと思っていただけたら、少しは世界も変わってくるんじゃないかなと思うのです。絵描きの金メダルっていうのは、100メートル走って金メダルではないので、賞などを取ることは必要ではないと思うのです。皆さまもたくさん絵を見たりしていただければ、いろんな自分の本当に好きなものが見つかると思うので、そうしていただきたいと思います。今日はこのようなお話をしようと思ひ、きました。ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:20 長尾 副会長

週報担当 松岡 美里